

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400119	事業の開始年月日	平成21年8月1日	
		指定年月日	平成21年8月1日	
法人名	株式会社日本ライフケア			
事業所名	「結」ケアセンターたまがわ			
所在地	(214-0012) 川崎市多摩区中野島1655-1			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月13日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1495400119&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の活動に積極的に参加 毎週定期的に公園体操に参加したり、老人福祉センターや町内会の催しものにも出来るだけ参加しています。また、おやつなどの購入のためスタッフが外出する折に出来るだけ入居者も同行したり、買い物目的の外出の機会も設けています。 家族とスタッフ間の関係作り 家族交流食事会や季節の行事への家族参加を積極的に呼び掛けています。 ボランティアの受け入れ ボランティアの協力を得て音楽活動を月2回実施しています。「傾聴ボランティア」の受け入れも進めており、楽しい話の機会を作り出しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成23年11月15日	評価機関 評価決定日	平成23年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はJR、小田急の登戸駅から徒歩約15分の昔からの住宅、企業の混在する地域の一角にあります。近くには多摩川が流れ自然を感じることもできます。建物は3階建てになっており、1階には通所サービス、2階、3階がグループホームとなっています。館内は広く間取りがとってあるため入居者が安全に過ごせるようになっています。また建物内には協力病院となっているつばきクリニックも入居しています。 <優れている点> 職員、医療関係者、家族を3本柱としてそれぞれの入居者に合った支援をチームケアで行うことを心がけています。介護計画作成担当者、フロア主任が情報を密に共有し家族にも協力を仰ぎながら、職員全体で入居者それぞれにあった支援のあり方の意義と方法を話し合っており、実行しています。また、振り返りも3ヶ月に一度行っています。 <工夫している点> 配食サービスを受けているため、業者の参加も求め食事委員会を月1回開催しています。会議の中で入居者の好み、イベント食などを話し合っています。書類を整備し簡素化を図ると共に介護の流れの見えやすい書類の作成を目指しています。 一人が受講した研修内容を職員全体にフィードバックすることにより意識向上とケアのステップアップを目指しています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	「結」ケアセンターたまがわ
ユニット名	2階

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢者の人格と尊厳を守り、豊かな日常生活が送れる」ことを念頭に、日々入居者様と接するよう心掛けている。	理念を基に「利用者のペースに合わせ、ゆっくり過ごし穏やかで、楽しい生活を送れるように」を方針としています。入居者、職員が共にゆっくり対応ができる人間関係を育て、入居者が在宅している時と同じ事を口に出せる介護を心がけています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。地域の催し物への参加や、散歩時のあいさつ、毎日の買い物など、外出の機会を作り、地域の人たちと触れ合う機会を持つよう努めている	定期的に朝の公園体操に参加したり、多摩川散歩などを行い地域の方とふれあっています。職員も地域からの採用が多く地域の情報が入りやすくなっており、情報をもとにおやつの買い物、花見の弁当など地域の店舗を利用しています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の相談窓口」としての目標はあるが、現在実施に向けての活動は行えていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催。町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表の方々に参加していただいている。機関紙や入居者状況・地域交流など意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進委員会は2ヶ月に一度行われています。会議では地域の人との関係を作ることを目指してボランティア、職業体験、保育園児などの受け入れ・訪問についての提案が出ています。実施できる事から順次実施しています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市の事業者連絡会等へは参加している。また、平成23年4月から生活保護指定介護機関としての働きが加わり、高齢者の生活支援に取り組んでいる。	事業所の状況説明に市役所に出向くなど市町村との関係をしっかり築けるよう努めています。また生活保護指定介護機関として「あんしんセンター」との連絡が密になってきています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「身体拘束をしない事」を基本としている。しかし、徘徊の激しい方が入居してから、やむを得ず危険回避のために玄関に施錠をしている。</p>	<p>1階を通所サービスに使用していることもあり玄関の施錠はされていますが、その他のドアは職員の工夫と見守りにより施錠はされていません。また、言葉による拘束を防ぐため「ダメ」と言わない介護を心がけるようにしています。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>現在虐待の報告は受けていない。入居者への声かけや態度については職員間あるいは管理者、主任が注意を喚起している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>川崎市の「あんしんセンター」を活用するよう支援をすすめている入居者が1名いる。生活保護に関するサポートも進めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に入居者と家族に不安の生じないように、主に管理者が重要事項説明書など十分に説明し納得していただき契約手続きを進めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「意見箱」を設置している。ホームの行事への参加を呼びかけ、出来るだけ顔の分かる関係を育てている。また、面会時に家族と話す機会を設けるよう努めている。得られた情報は、スタッフミーティングで内容を検討している。</p>	<p>家族による来訪が多いため家族から職員が直接話を聞ける関係が作られるよう努めています。家族からの話は申し送りノート、ケア記録などに記載し職員全員で共有すると共に内容を検討しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月の主任会議やフロアミーティングで意見交換をしている。この内容については、月1回の幹部会議で法人全体に報告、必要な検討も加えられる。	管理者は毎月行われる主任会議、フロア会議で日常業務の状況、提案、意見を聞き業務に反映させています。職員からは人員配置、研修強化、看取りについての意見が出ています。また月1回の幹部会議では管理者が報告を行い、法人代表者も来所しています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト勤務による休日の年間調整のため、月間休日数を確定した。また有休や夏休、冬休などの休みについても取得しやすく努めている。 ホーム全体で年間行事の担当を決め、得意なことに力を発揮してもらい、やりがいが持てるように支援している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員については1ヶ月の研修の機会を設けている。 また外部研修の受講機会について情報を提供し、参加を勧めている。 内部研修は、口腔ケアや、高齢者の栄養などについて実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修の機会が同業者との交流の機会でもあるので、その時を積極的に活用している。 法人内の他事業所との交換交流は、3ヶ月ごとの部門別会議なども含め実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、出来る限りホーム見学を勧めている。ご本人様との面会・面談で、希望・生活状況などについて情報等を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時、面接時を含め、ご本人様やご家族との対話を重視している。家族からの希望・情報等を得て、「不安に感じていること」や「困っていること」を把握するように取り組んでいる。また、それらの情報を職員間で共有できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いま一番必要なことを見極め、他部署と連携を取りながら取り組んでいる。生活保護の受け入れ平成23年4月に指定を受け、取り組んでいる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩」「ひとりの人」として安心して生活が送れるように、その人の立場に立って接することを心がけている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機関紙を送付したり、ホームでの「家族交流食事会」や「梨狩り」、「夕涼みの会」など行事にできるだけ参加を呼びかけ、入居者の日常生活を知っていただけるように取り組んでいる。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くから入居してきた方が多いこともあり、友人や知人の方が面会に来られたり散歩の途中で偶然会うこともある。その場で気兼ねなく話せるようにスタッフが間に入ることもある。家族の面会時もゆっくり話せるような場の提供に努めている。	家族や馴染みの人に気持ちよく来訪してもらうため、職員は来訪者と一緒に話したり、ゆっくり話せる場の提供を積極的に行っています。また近所の人に来訪しやすい雰囲気をつくるためボランティア、実習生の受け入れなど積極的に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のため、意見が合わず、口論になる時もあるが、他者を手助けしたり、家事仕事を分担してやって頂いている。食事やおやつ時は、全員が揃って召しあがっていただいている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了直後は、ご家族より近況を伺ったりすることもある。また、必要時にはご家族からの相談に乗ることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何事も本人の意思を確認しながら実施している。意思決定が難しい方については、ミーティング等で検討している。	寄り添うようにソファの隣に座りゆっくり話しかけながら入居者の話を聞いたり、入居者の個室でゆったり話を聞いたりすることを何度も繰り返すことにより思いや意向を確認しています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から今までの暮らし方を伺い、心穏やかに安心してホームでの生活がおくれるよう「なじみの物」を置くなど環境に配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを大切にしている。「できること」「できないこと」を把握し、ご本人の有する力を引き出せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケアプラン実施表にてモニタリングしている。介護計画については、本人・ケアマネ・職員等によるミーティングを開き検討している。問題点等はご家族に伝え相談するよう努めている。</p>	<p>チームで介護を行うためカンファレンスはシフト当番全員集まることができるよう午後1時からを設定し職員の意見が集まりやすいようにしています。また、毎日15分ミーティングを行い入居者の状況を全員で把握し次回の介護計画の見直しに役立てています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>食事・排泄・入浴等の生活記録、個々のケア日誌・申し送りノートなどを使用している。出勤時には必ず職員は目を通すようにしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>訪問マッサージ・訪問歯科・訪問理美容等個々の要望にこたえるように努めている。また、ご家族対応にて、行きつけの美容院や歯科へ行っている方もいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティア・老人福祉センター・民生委員・自治会等の関係を大切に、少しでも入居者が楽しめる環境を整えるよう努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族の希望するかかりつけ医の受診の支援をしている。ホーム提携医療機関をかかりつけ医としている方は、月2回の往診と24時間体制で対応している。診療情報提供書等により他医療機関受診の支援をしている。</p>	<p>入所時にホームの協力医がかかりつけ医となることがほとんどですが、本人・家族の希望するかかりつけ医を継続される方もいます。協力医である内科医・歯科医による月2回の訪問診療、看護師による週1回の訪問と同時に24時間オンコールの体制になっています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接しているクリニック所属の看護師とは、常に連絡をし、情報交換をしている。毎週月曜日には、訪問看護を実施しているので緊急時の指示を受けやすい。また24時間体制で看護師・医師との連絡体制が出来てる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、病院へ見舞ったりしながら病状の把握に努めている。特にご家族との連絡に留意している。必要な時には、介護サマリーを提供している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを受け入れる方向へはあるが、現在対象とする方がいなく、職員間での方針一致は出来ていない。対象になりそうな方や希望するご家族の意向を受け主治医とは相談し検討することもある。	家族の依頼があれば看取りは行う方向ですが、現在は職員間の意識、教育訓練体制、医療関係者との共通認識が整っていません。	重度化や終末期に向けた対応のあり方について法人本部、医療関係者、職員、家族と話し合い事業所としての方針を検討されることを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。スタッフがすでに持っている知識に加え、今後看護師等の指導の下、実践力の訓練に努める。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の総合訓練（避難誘導・初期消火・通報訓練）を夜間、昼間想定ともに実施している。特に消防署との連携に努めている。また、運営推進会議の構成員として参画している民生委員や町会関係者などとの協力についても関係作りが進んでいる。	消防署の指導を得て、防災・避難訓練は年2回行っています。いざという時のため本格的な訓練の実施を考えています。また、災害時は近隣の方々の協力をお願いすると共に、いずれはサービスの場所を近隣地域の一時避難所にと考えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	遠くから大きな声で名前を呼ばない。失敗しても、そのことを指摘したり批判するような態度は慎む。知り得た入居者のプライバシーは口外しない。 「ちゃん」付や幼児語は使用しないよう心がけている。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けています。言葉による拘束には特に気をつけており、管理者は日々のケアの中でそれらが実践されていることを常に確認するとともに必要があれば個人面談で注意を促しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にわかるようにゆっくり説明してから、決めて頂くよう声掛けをすることを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間のみ決めているが、それ以外は予定を作っていない。 昼食前の体操や午後のレクリエーションについても参加は本人の意思による。 また、気候が良ければ散歩へ行くなど心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面・ひげそりなどの整容、就寝時のパジャマへの着替え、入浴時の着替え準備を職員と一緒に用意し認識してもらっている。本人の希望や身体状況の他、季節・天候にあった服を着ていただくよう努めている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助（皮むき・炒める・切る・味付け等）お茶淹れ・テーブル拭き・配膳・下膳食器拭き等、声掛けをしながら行っていただいている。	献立は食材業者のものを利用しています。食事委員会を設置し、月1回業者の管理栄養士を交えて入居者の要望や栄養面を検討しています。入居者はできる範囲で下準備や配膳、後片付けを手伝っています。外食やお弁当持参の外出を楽しむこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の食事量・水分量を記録している。月1回体重測定し、体調管理も含め看護師と相談、栄養補助食品等提供を検討している。管理栄養士と月1回の食事委員会で栄養や献立の検討をしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケア・夜間の義歯洗浄を声掛けしながら出来るところは行ってもらうよう支援している。歯科衛生士さんの指導研修の成果でもある昼食前の口腔体操を実施している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>車椅子自操の方には声掛けしながら誘導している。尿意、便意のない方は排泄リズムを把握して声掛け誘導している。拒否の強い方は、トイレ内にてパットのみ交換などしている。</p>	<p>排泄チェック表を使用し入居者ごとに排泄リズムを把握して誘導しています。失禁したときは入居者のプライバシーに配慮した声かけや誘導をすると共に体が冷えないように手早い対応を心掛けています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>昼食前の体操・歌など腹筋運動を促している。排便のチェックを行い、必要な時は下剤の与薬等によるコントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>決まった曜日指定はしていないが、週2回は入浴している。脱衣所を暖めておいたり、入浴剤を入れたりし気分転換を図っている。拒否される方については、時間を開けたり職員を替えて声掛けを行っている。</p>	<p>入浴は一人平均週3回を基本とし、希望があればその都度対応しています。入浴拒否の入居者には声かけを工夫して誘導しています。入浴時は必ず職員が介助に付きます。一人でゆっくり湯船に入れるように少し離れて見守りをすることもあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛の訴えのある方は、日中臥床される時間をつくっている。 室内の温度調節や物音、声などの環境整備をすすめる。 日中、身体を動かす機会を多くするよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れ・誤薬を防ぐために、セット・配薬・確認ごとにチェックしている。また配薬時には、日付・名前・朝・昼・夕などご本人の前で読み上げてから渡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や興味がありそうなものを提供できるように、一人ひとりにあった内容を考え、楽しいひと時を過ごして頂けるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物同行、地域での催し物などへの参加しての予定を組んだ時には、スタッフの配置を多くして対応できるように支援することに努めている。 家族の参加協力を呼び掛ける機会が増えてきている。	できる限り外へ出るよう積極的に支援しています。地域の高齢者の集まりや近隣の公園での体操に参加しています。全員が参加する外出行事では家族にも協力を呼びかけ共に行事に取り組んでいます。歩行困難な入居者には車イスや車での送迎で対応しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が品物を選ぶが、支払いはスタッフが行うようにしている。個人の買い物は「立替」としている。 自分で管理している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが取次、ご本人に電話口に出ている場合が多い。 携帯電話を持っておられる方もいる。 手紙は書ける方は少ない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのボードには毎月、入居者様と季節を感じられるような飾り付けをしている。 場所や居室がわかるように目印を貼ったり花を飾ったりしている。また、BGM音楽を流したり工夫している。	居間は採光がよく、トイレ、浴室、脱衣所は広く使いやすくなっています。食堂には入居者が手書きした献立表や手作りのカレンダーが掲示されています。入居者同士の関係にも配慮し居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者個々に気に入りの場所、好きな場所がある、と同時に複雑な人間関係もあるため隣に座られる方への配慮はしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスと洗面台以外は、ご本人持ちとさせていただいている。 ご家族へは、なじみのものをと声掛けを行っている。	居室には大きなタンスと洗面台が設置されています。入所時には本人が馴染んだ物のほかに、ベッド以外に座る場所がないのでイスの用意をアドバイスしています。掃除は職員と入居者が一緒におこなっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の分かりにくい方は、扉に大きく名前を貼ったり、トイレをさがしておられる時は、声掛けし扉を開けて誘導している。 車椅子自操の方には、動きやすいところまで介助している		

事業所名	「結」ケアセンターたまがわ
ユニット名	3階

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢者の人格と尊厳を守り、豊かな日常生活が送れる」ことを念頭に置き、日々入居者様と接するよう努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。地域の催し物への参加や、散歩時のあいさつ、毎日の買い物など、外出の機会を作り、地域の人たちと触れ合う機会を持つよう努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来るだけ入居者と一緒に、外出の機会をつくることにより認知症の方との交流の様子を見ていただくように努めている。 「認知症の相談窓口」としての目標はあるが、現在具体的な行動は起こしていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催。町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表の方々に参加していただいている。機関紙や入居者状況・地域交流など意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市の事業者連絡会等へは参加している。また、平成23年4月から生活保護指定介護機関としての働きが加わり、高齢者の生活支援に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない事」を基本としている。しかし、徘徊の激しい方が入居してから、やむを得ず危険回避のために玄関に施錠をしている。改善の方策を模索している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待の報告は受けていない。職員間でのコミュニケーションを密にして虐待を見過ごさないよう注意を喚起している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会があるが現在のユニットでは、必要とする方がいない。生活保護の方の受け入れに伴うサポートをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者と家族に不安の生じないように、主に管理者が重要事項説明書など十分に説明し納得していただき契約手続きを進めている。契約終了についても管理者によって行われている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に家族と話す機会を設けるよう努めるとともに、ホームの行事への参加を呼びかけ、出来るだけ顔の分かる関係を育てている。また、得られた情報は、スタッフミーティングで内容検討している。玄関に「意見箱」を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月2回の主任会議やフロアミーティングで運営状況を報告し、スタッフの意見反映にも努めている。この内容については、月1回の幹部会議で法人全体に報告、必要な検討も加えられる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト勤務による休日の年間調整のため、月間休日数を確定した。また有休や夏休、冬休などの休みについても取得しやすく努めている。 ホーム全体で年間行事の担当を決め、得意なことに力を発揮してもらい、やりがいを持てるように支援している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員については1ヶ月の研修の機会を設けている。 また外部研修の受講機会について情報を提供し、参加機会を増やすようにしている。 内部研修は、口腔ケアや、高齢者の栄養などについて実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修の機会が同業者との交流の機会でもあるので、その時を積極的に活用している。 法人内の他事業所との交換交流は、3ヶ月ごとの部門別会議なども含め実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホーム見学をしていただき、その際の面談等で、本人や家族の希望・生活状況、生活歴等について情報等を把握するよう努めている。その上で特に本人の想いに耳を傾け安心感を持って頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至る家族の想いや要望、不安なことを伺いその内容を理解するよう努力している。少しでも安心して頂けるように、入居後の日常生活の様子を面会時に伝えるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>いま一番必要なことを見極め、他部署と連携を取りながら取り組んでいる。生活保護の受け入れ平成23年4月に指定を受け、取り組んでいる。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>「人生の先輩」「ひとりの人」として生活の役割を持っていただき、安心して生活が送れるように心がけている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>機関紙を送付したり、ホームでの「家族交流食事会」や「梨狩り」、「夕涼みの会」など行事にできるだけ参加を呼びかけ、入居者の日常生活を知っていただけるよう取り組んでいる。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近くから入居してきた方が多いこともあり、友人や知人の方が面会に来られたり散歩の途中で偶然会うこともある。その場で気兼ねなく話せるように、スタッフが配慮しゆっくり時間がとれるようにしている。家族の面会時もゆっくり話せるような場の提供に努めている。入居前の習いごとが継続できるよう家族と協力してサポートしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のため、意見が合わず、口論になる時もあるが、他者を手助けしたり、家事仕事を分担してやって頂いている。食事の時も配膳、下膳が自然に行えるよう声掛けし見守っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了直後は、ご家族より近況を伺ったりすることもある。また、必要時にはご家族からの相談に乗ることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何事も本人の意思を確認しながら実施している。意思決定が難しい方については、家族、スタッフの間で検討し、ミーティング等で内容確認を進めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から今までの暮らし方を伺い、心穏やかに安心してホームでの生活がおくれるよう「なじみの家具や品物」を置くなど環境に配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを大切にしている。「できること」「できないこと」を把握し、ご本人の有する力を引き出せるように努めている。出来ないことについては統一したケアになるようスタッフ間で心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケアプラン実施表にてモニタリングしている。介護計画については、本人・ケアマネ・職員等によるミーティングを開き検討している。問題点等はご家族に伝え相談するよう努めている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>食事・排泄・入浴等の生活記録、個々のケア日誌・申し送りノートなどを使用している。出勤時には必ず職員は目を通すようにしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>訪問歯科・訪問理美容等個々の要望にこたえるように努めている。 また、ご家族対応にて、地域の行きつけの美容院や歯科、カラオケ教室へ行っている方もいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティア・老人福祉センター・民生委員・自治会等の関係を大切にし、入居者が楽しめる環境を整えるよう努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族の希望する「かかりつけ医」受診の支援をしている。ホーム提携医療機関をかかりつけ医としている方は、月2回の往診と24時間体制で対応している。診療情報提供書等により他医療機関受診の支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接しているクリニック所属の看護師とは、常に連絡をし、情報交換をしている。毎週月曜日には、訪問看護を実施しているので緊急時の指示を受けやすい。また24時間体制で看護師・医師との連絡体制が出来てる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、病院へ見舞ったりしながら病状の把握に努めている。特にご家族との連絡に留意している。 必要な時には、介護サマリーを提供している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを受け入れる方向ではあるが、現在対象とする方がいなく、職員間での方針一致は出来ていない。 対象になりそうな方や希望するご家族の意向を受け主治医とは相談し検討することもある。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。 スタッフがすでに持っている知識に加え、今後看護師等の指導の下、実践力の訓練に努める。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の総合訓練（避難誘導・初期消火・通報訓練）を夜間、昼間想定ともに実施している。特に消防署との連携に努めている。 また、運営推進会議の構成員として参画している民生委員や町会関係者などとの協力についても関係作りが進んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	遠くから大きな声で名前を呼ばない。失敗しても、そのことを指摘したり批判するような態度は慎む。 入居者のプライバシーは口外しない。「ちゃん」付や幼児語は使用しないよう心がけている。 手伝ってくださったらお礼を言う事を励行している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にわかるようにゆっくり説明してから、決めて頂くよう声掛けをすることを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間のみ決めているが、それ以外は予定を作っていない。 昼食前の体操と午後のレクリエーションについては毎日実施しているが、参加は本人の意思による。 また、気候が良ければ散歩へ行くなど心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面・整容の介助、就床時の更衣の介助、入浴時の着替え準備介助。 職員と一緒に用意し認識してもらっている。 本人の希望や身体状況の他、季節・天候にあった服を着ていただくよう努めている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備（皮むき・炒める・切る・味付け等）お茶淹れ・テーブル拭き・配膳・下膳・食器洗い・食器拭き等無理のない程度で、声掛けをしながら行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の食事量・水分量を記録し、不足のときは声掛けし支援している。</p> <p>月1回体重測定し、体調管理も含め看護師と相談、栄養補助食品等提供を検討している。</p> <p>管理栄養士と月1回の食事委員会で栄養や献立の検討をしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケア・夜間の義歯洗浄を声掛けしながら出来るところは行ってもらうよう支援している。</p> <p>歯科衛生士さんの指導研修の成果でもある、昼食前の口腔体操を実施している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>トイレの場所が分からない方を誘導する。</p> <p>尿意、便意のない方は排泄リズムを把握して声掛け誘導している。</p> <p>拒否の強い方は、少し時間をおき再度声掛けしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>昼食前の体操・歌など腹筋運動を促している。</p> <p>おやつにヨーグルト等排泄効果が期待できる物を工夫して提供している。</p> <p>排便のチェックを行い、必要な時は下剤の与薬等によるコントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>2名は曜日を決めているが他の方は、体調を見て入浴して頂いている。週2回は入浴している。洗身、洗髪介助は全員必要な状態。</p> <p>脱衣所を暖めておいたり、入浴剤を入れたりし気分転換を図っている。拒否される方については、時間を開けたり職員を替えて声掛けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調節や照明、物音、声などの環境を整えるよう努めている。 また、日中には体操やレクリエーションなどで身体を動かす機会を多くするよう取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れ・誤薬を防ぐために、セット・配薬・確認の度にチェックしている。また配薬時には、日付・名前・朝・昼・夕・就眠前などご本人の前で読み上げてから渡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や興味がありそうなものを提供できるよう、一人ひとりにあった内容を考え、楽しいひと時を過ごして頂けるよう支援している。外部のカラオケ教室への参加も家族と連携して進めている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物同行、地域での催し物などへの参加しての予定を組んだ時には、スタッフの配置を多くして対応できるように支援することに努めている。 家族の参加協力を呼び掛ける機会も増えてきている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ本人と同行して、本人が品物を選び、支払いはスタッフが行うようにしている。個人の買い物は「立替」としている。現金を持っている方もおり、値段等をメモしておき、家族に伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが取次、ご本人に電話口に出ている場合が多い。 携帯電話を持っておられる方もいる。 手紙は書ける方は少ない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのボードには毎月、入居者様と季節を感じられるような飾り付けをしている。 日常生活や外出時、行事の時の写真などを掲示している。 場所や居室がわかるように目印を貼っている。 食事のときは、静かに音楽を流している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者個々に気に入りの場所、好きな場所がある、と同時に複雑な人間関係もあるため隣に座られる方への配慮はしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスと洗面台以外は、持ち込み可能です。 ご家族へは、「なじみの物」を持ってきてくださるようにと声掛けを行っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の分かりにくい方は、扉に大きく名前や目印を貼ったりしている。 トイレをさがしておられる時は、さり気なく声掛けし誘導している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に関して、法人本部、医療関係者、職員、家族と話し合い、事業所としての方針を検討する	教育訓練を強化し、重度化や終末期の理解、具体的な看取りに関する職員の意識、医療関係者との共通認識を育てる。	1、看取りに関する外部研修を進める。 2、認知症介護を取り巻く終末期の医療の状況について研修する 3、ホームでの看取り介護について、内外部研修を進める	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。